

171 口腔がん発症に關与する細菌叢と免疫応答の解明

熊谷 賢一

【目的】 本研究では、口腔がん患者を研究対象とし、唾液中の口腔内細菌叢の変化を比較検討することで、口腔がんの発症に關与する口腔内細菌叢を解明することを目的とした。

【方法】 口腔癌患者 13 名と健常者 16 名を研究対象とし、唾液中の菌叢を次世代シーケンサーによるメタゲノム解析を実施した。

【結果】 門レベルでは口腔がん患者と健常者ともに Firmicutes、Bacteroidetes、Proteobacteria、Actinobacteria の順での存在頻度は同一であったが、口腔がん患者では Fusobacteria、TM7、健常者では TM7、Fusobacteria の順であった。Fusobacteria が口腔がん患者の唾液中に多く認められたことから、口腔がん患者の発癌に關与している可能性が示唆された。

口腔がん患者の唾液中の菌叢 (門レベル)

